

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2024年4月19日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.146 < 小技を伝え、講師と信頼関係を築く >

新年度になり、貴塾にも新しい生徒達が通い始めていることでしょうか。そして、新しい顔ぶれは、何も生徒に限ったことではなく、新しい時間講師も指導を始めています。最近、講師不足が深刻な問題ということもあり、一人の講師をしっかりと育成して長く勤めてもらいたいものです。

講師に長く勤めてもらうには、講師の不安を取り除き、安心して授業ができるスキルと環境を創ることが肝要です。そこで、今回は、講師に伝える生徒対応スキルの一つをお伝えします。

生徒の中に、説明の最中や演習中、「ねえねえ先生！」と声をかけて、講師を困らせる生徒がいます。こんな生徒は、「自分のことをかまってくれない生徒」なのです。

そんな生徒には、「授業の受け方をしっかり伝え注意をすればいいではないか」と思われる方もいらっしゃるでしょう。しかし、その対応こそが、「注目して(かまって)」という要求に答えてしまっていることが多いのです。「ねえねえ先生」に対して、講師が親切に対応することも、注意したり、怒ったりすることも、「相手の気持ちをこっちに向けさせた」という意味で、生徒にとって「成功」なのです。

こんな場面で、あえて「無視」という方法があります。『「適切でない場面」で生徒に注目する（応じる、怒る、注意することほしない』という毅然とした態度なのです。完全に無視することが不安であれば、「はい。」とだけ応えて、他の生徒への指導を継続すればいいのです。ただし、無視をただけでは、行動が改善するとは限りません。むしろ、「先生は自分を無視した」とこれ見よがしに訴えるかもしれません。

そこで、「無視」とセットですべきことが、「適切な場面」で認める(承認する)ことです。「適切な場面」でしっかり認めていけば、生徒は無視された時に、もう「無視された」なんて言わなくなります。そんなことをすれば、自分が惨めになることを悟るのです。「不適切な場面」だから、先生は応えてくれないことを知っているからです。

認めるべき場面、例えば、「集中して授業が受けられた」、「他の人の話をしっかりと聞いた」、「自分の考えを堂々と言えた」、「質問をした」、「ノートの字がマス一杯に大きい」などなどです。

ぜひ、上記のようなことをOJT(現場での指導)で講師に伝えてください。少しずつ、スキルを講師に教えていけば、講師は困った時に相談する扉が開いていることを感じ、安心して授業に取り組んでくれることでしょうか。そうなったら、塾のベクトルが一つになって、良い教室が形成されていくものです。

【編集後記】 ————— お知らせ 1 —————

**若手社員の現場スキル向上と経営者の視点を育み、
 生徒を集める即戦力へと育てます
 「塾人プロ養成研修」東京・大阪で開催**

学習塾は、教室にいる「人」によって大きく左右される業界です。この「塾人プロ養成研修」では、学習塾の最前線で活躍されている現場の先生方を対象に、生徒・保護者の信頼を集めるテクニカルスキル(教務力・対人力・計画力・感応力)を体系的に学んでいただける講座です。全3回の講座(単発受講可能)で、若手社員のレベルアップを図ります。

★詳細とお申込みはこちらから★

<https://management-brain.net/mbaseminar03>

————— お知らせ 2 —————

**顧客ファン化で夏を制す！
 ~中小塾の集客成功の方程式~
 JEC 学習塾経営セミナー 6月9日(日)開催**

■今年もリアル(渋谷会場)&オンラインのハイブリッド開催！

【講演1】

クチコミを意図的に発生させる「内部生と保護者のファン化戦略」

【講演2】

集客に困らない経営をする「地域にいる見込み客をファンにする方法」

【講演3】

お客様を「共創の関係」に変え、集客につなげるファン化戦略

★詳細とお申込みはこちらから★

<https://kyoiku-saisei.com/JECseminar/>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.110

ここ何年かで大学入試が大きく変わってきました。

これだけ変わってきたんだから、高校生が受験の準備を始める時期も変わったんだろうなあと、ぼんやり考えていましたら先月下旬、こんな調査結果が発表されました。

大学受験の勉強を本格的にスタートした時期はいつでしたか？

高3夏	30.3%	高3春	20.5%
高2冬	18.8%	高3秋	8.7%
高2秋	5.0%	高2夏	3.7%
高3冬	2.9%	高1春	2.4%
高卒後	2.0%	高2春	1.8%
高1冬	1.4%	高1秋	1.0%
中学生	0.9%	高1夏	0.6%

Studyplusトレンド研究所(スタディプラス株式会社)がこの春に大学を受験する(した)受験生1,608人を対象に、昨年11月から今年2月にかけて行った調査です(「受験トレンド白書 2024『ホンネ編』」/24年3月26日)。高3の夏が一番多くて30.3%、その次が高3春の20.5%。両方合わせると50.8%。

さらに、高3秋と高3冬も加えると62.4%。

受験生の6割以上が高3になってから慌てて準備を始めるんですね。

ウン…。

少子化や大学の増加によっていかに入試が楽になったとはいえ、これでいいんでしょうか…。

ちょっと調べてみると、こんな調査もありました。

高校時代の平均勉強時間(平日)はどのくらいでしたか？

	高1	高2	高3
1時間未満	36.7%	30.6%	15.5%
1時間	22.2%	20.5%	11.7%
2時間	18.6%	19.8%	14.6%
3時間	11.7%	14.1%	17.9%
4時間	4.4%	4.7%	12.5%
5時間	3.0%	4.6%	11.1%
6時間以上	3.6%	5.7%	16.8%

高校時代の平均勉強時間(休日)はどのくらいでしたか？

	高1	高2	高3
1時間未満	36.9%	30.2%	15.1%
1時間	17.0%	14.1%	7.7%
2時間	19.1%	17.0%	9.0%
3時間	12.8%	14.5%	13.8%
4時間	5.0%	7.9%	10.8%
5時間	3.8%	6.6%	10.7%
6時間以上	5.3%	9.8%	32.9%

こちらはじゅけラボ予備校(株式会社エンライク)がこの3月アタマに、第一志望大学に現役合格した1,074人を対象に行った調査の結果です(「現役合格者の高校生時の勉強時間に関するアンケート」/24年4月1日)。

平日で最も多い平均勉強時間帯は高1時代が「1時間未満」(36.7%)、高2時代も「1時間未満」(30.6%)、高3になってようやく「3時間」(17.9%)。

休日の場合も高1の時には「1時間未満」(36.9%)が最多、高2の時も「1時間未満」(30.2%)が最多、高3になって「6時間以上」(32.9%)。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.110-2

平日の「1時間未満」と「1時間」とを合計すると高1時代が58.9%、高2は51.1%。

休日の「1時間未満」と「1時間」とを合計すると高1時代が53.9%、高2は44.3%。

多くの受験生が高3になるまで全くと言ってよいほど勉強していなかったのがよく分かりますね。

四当五落などという言葉が流行った遠い昔に高校生活を送った身としては、少しばかり複雑な気持ちになってしまいました。

とはいえ、もちろん、高1の時や高2の時に驚くほど勉強していた高校生もいたようです。

上記の表では紙幅の関係で「6時間以上」にまとめてしまいましたが、この調査には1時間ごと「11時間以上」まで選択肢があります。

それを見ると、高1時代の平日に「8時間以上」勉強したという生徒が1.3%、高2時代には1.6%、高3時代には7.4%いました。

また、高1時代の休日に「10時間以上」勉強したという生徒が1.3%、高2時代には1.5%、高3時代には9.4%いました。

とりわけ平日、どうすりゃそんなにも多くの勉強時間が確保できるのか不思議ですが、まあ、そういうヒトもいたんでしょうね。

ちょっとばかり偏見に満ちた見解を承知で、興味深い数字を眺めてみることにしましょう。

文科省「学校基本調査」によれば、昨年春の四年制大学学士課程入学者は632,902人でした。

このうち東大と京大の入学者は5,957人、全入学者の0.9%に相当します。

東大、京大を除く旧制5帝大の入学者は13,003人、全入学者の2.1%。

早慶上理の入学者は22,262人、全入学者の3.5%。

旧制7帝大を除く国公立大入学者は115,057人、全入学者の18.2%。

MARCHと関関同立の入学者は59,073人、全入学者の9.3%。

これらの大学の入学者の合計は215,352人、全入学者の34.0%に相当します。

こう申し上げると語弊があるかもしれませんが私は、「大学入試程度の学力」の高低は持って生まれた能力とはかわりなく、基本的には高校時代3年間の学習量の多寡に比例すると思っています。

例えば高校入試段階で偏差値50前後の生徒が3年間、周囲よりもちょっとだけ余計に、前の表でいえば高1、高2の段階で平日3時間、高3段階で平日4~5時間、勉強すれば、ゆうゆう上記のいわゆるブランド大学、あるいはそれと同等クラスの大学に入れると思っています。

ただし、時間さえ十分取ればよいというものではなく、毎日の勉強には優先順位があります。

まずは学校の宿題、次に英数国の予習と復習、その上で学校授業だけでは受験に対応できない分野、とくに英単語の暗記と数学の問題の習熟。

いつから大学受験の準備をなどと肩に力を入れることなく、高校生になった時点からごくごく普通にこれをキチンとやっておいて、高3の夏から目指す大学の受験科目や傾向に合わせて勉強を進めていけば間違いなく合格すると思っています。

新年度が始まりました。

高校に入学して皆さんの塾を離れた生徒も少なくないことでしょう。

GWあたりを利用してそうした生徒に声をかけ、毎日コツコツと勉強することの重要性を伝えてあげてください。

また、皆さんのところに高校部門があれば最低週1回は通うよう、なければ毎月1度くらいは塾に顔を出すよう勤めてください。

それが彼らを高校に送り出した塾教師としての務めだろうと思います。

皆さんはどう思われますか？

PS・コンサルティング・システム
小林 弘典